

山陰新聞 明治廿八年二月二十四日 第五九一三号

● 隠岐の新島

北緯卅七度九分卅秒 東經百卅一度五十五分  
隠岐島を距る西北八十五哩に在る島嶼を竹嶋と稱し自今隠  
岐島司の所管と定めらるると県知事より告示せり右島嶼は周囲  
十五町位の二島より成る周圍には無數の群島散在し海峡  
は船の碇泊に便利なり草は生へ居たるも樹木は無しと云ふ

山陰新聞 明治廿八年二月廿五日 第五九一三号

小絃

隠岐國に竹島を合併して島司の管轄に属せしは縦し叢生  
たる島はなるにせよ少しく爽快を感ずる所がある即ち島根県

か竹島だけ所管が広くなりたる誤であつて比所屬なき小島  
 が明かに国土に編入せられたることである▲彈丸黒子の島  
 はの有無は島根県の価値を高位するに足らざるも既に編  
 入せられたる以上は之れを利用するの計を講せねばならぬ  
 ▲無人島にして樹木なく雜草叢々として人の住居に適當  
 せざるへきも船舶の碇繫に便利なるは最も喜ぶべきことに  
 して來往の困難ありとするも充分湾内に避難するもの  
 得るのである▲吾人は移住を奨励するにありしとして出稼地  
 として適者なるを信するものである則ち海野の棲息場として  
 漁場として有名なるを以て隠岐人は永遠の利源として此島を  
 待たねばならぬ▲出稼上樹木と清水との必要あるは誤くまで  
 凡かい隠岐國と地質を異にせざる同島に於て樹木は必ず  
 枯損すと断すへからす海風吹き荒れるにより移植に保護を  
 要するや勿論あり又天候候急變にてお誘い波浪の相向  
 孤島に漂着せざるへからざる場合もお誘い波浪の相向  
 風を防ぐの木、食餌煮沸の木として最も小林が尊敬を拂は

らるへべく其他船舶の応急修理の木、避暑の木として  
 貴重なるべく思はる▲清水なく人は一日生自すへから  
 す蓋し小林之れを誣養するに至らんと思像せらる  
 ▲海野は從來隠岐人の捕獲するものにして堀水産博覽  
 会にも出陳せしほどであるが一特有物産として販賣するも  
 得べきもので——以下敷衍なし——

山陰新聞 明治廿八年六月六日 第六〇二号

●竹島の視察 竹島とは既記したる如く去る二月廿三日  
我軍管下に新入せられたるものにして有名なる海獺の産  
地なるか端なくも日本海に依りて其名を一時に知ら  
ぬぬ(リヤンコールド岩は即ち此の竹島なり)即ちはちの  
第三バルチック艦隊司令官オホカトワ少将の降参せし  
此の島附近にして大々的<sup>海獺</sup>アリヨール戦闘艦外三隻  
と捕獲せしむ亦此の島附近なるか本県知事は近々第一  
一部長を除く多高等官其他と<sup>船</sup>に渡航視察するを  
以て遂に西八十五海里もあること<sup>て</sup>松島<sup>嶺</sup>島へ寄泊  
する予定なりと

杜鵑声々

上界▲二六といふ新聞に竹島の河野氏のことが書かれてあるが如何にも淺薄識を抱腹に堪へないレカも其報方まで参考になりぬことが書いてある▲其報方に曰くサ興神谷が鋭敏をから風上から行くといふ教理を隔って居ても噴きつけるので必ず風下から行くのちやと▲竹島で獲するのレインをフマを遣るヤフはないう竹島で生産する時機を見つ獲するのレインを摘んで行かなくては島から打ち取ることも出来ぬ▲又曰くサ一頭を二百円とするも五百頭で十万円だから島根県の負債も一億はぬか為め一千万円の貸入を増す勘定だと▲一頭が三頭とば毎野を獵虎や腹臍肺と同様と見たのである▲一頭僅かに十円が十五円のもので五百頭や千頭を獲たからして小便銭にも足りないので若し二百円といふなら二六先生一番買つて受れまいが

竹島海野の消息 且下竹島の海野に關しては海戦

と與に東京大阪等の新聞に現はれしが目下其期節にて昨年比すれば上陸するもの稍少きは海戦の砲声は僻易せし結果にてもあらんが去にても其收入は一頭平均十円として十萬円を下らざるべしと云へり持に注意するべきは濫獲にして勿論上陸の頭数に依りて銃殺を定むべきなりと曷もし注意して生産を妨げざることを所要なりと其道の人言ハリ

山陰新聞 明治廿八年七月三日

◎海戦紀念繪葉書 日本海々戦の爲め俄かに其名を知れたる目下下竹島(リヤンコールド岩)は大戦の紀念として好箇のものなるが松永知事の発意にて日本海と島根県と隠岐、隠岐と竹島とも印多れせる繪葉書を新調し外国向にせんと目下計畫中なり至極面白き考按にして海軍の戦勝勇士に贈するにも亦適者の紀念あるべし

山陰新聞 明治廿八年七月十四日

繪葉書通信 山口漢翁

▲無人島のリヤンコールド岩(竹島)は端なくも日本海々戦に依りて世界に名も知らるゝに至りて海軍の糧倉所として銀万の富を有することも広告し併せて島根県の管轄なることも明かになつた

▲蓬が内所に依れば早知事各部長新聞記者等が渡航して其地

形を視察するといふことであるが是れは単として政府としても調査せねばならぬことと亦世界に之れを報告することを必要であらうと曰ふ  
此孤島が将来に重視せらるることは単に海防のみで比動物なくは孤島は抛棄するも惜あらぬものである存本は海防の濶度を敷業することと左様に孤島を保存する理であるが漢夫の常として一時の收利を目的に其種属を絶滅せんとし保証し難いので場合に依りは漢船に監査官を来しませしめねばならぬかも知れぬ

竹島は俄然自根県の管轄となりしより着愛心を生じ好奇心を起さしめれども従来事実上の管轄を冷視したるは奇怪千万である  
吾等松島と稱する樹蔭島二れ  
松島に住する我邦人は重に木挽を業とし仲買貿易に従事するも亦本邦への輸送は木材にして大豆之れに欠き本邦よりの輸入品は衣服用木綿及び米醬油酒等であるが森林の広大なることは天田を遮断し斧鉞の入らざる敷里に亘るにても知らる  
全島人口中殆ど多数なるは島根県人にして鳥取県之れに次げり  
島根県に之は雲隠の人鳥取県に之は伯耆の人なりと聞けるが此類

出入商品は境税関に於て統計上主位を占めたるものである  
露國が軟木を得ん爲めに朝鮮政府と約定して此島を領し日本人の退去を命じたる時に當り政府は何等抗議を申しますか  
遂に雲隠伯耆の紛擾する所ありしとは何人も記憶に存することであらう  
在島の島根県人は百四十八人鳥取県人二十四人にして其他の島人は十人未滿なる由で自然に板勢は島根県人の掌中に歸し他島人は其頭使の甘んじ其氣息を窺ふて居る  
吾等知事一行は竹島視察と共に松島の渡航せねばならぬ或は他日島根県の管轄となる時があらうと思ふ然らずとすも吾等民保護の爲めには相考の方法を講じ一層事實的管轄として彼等の心を安んずるに待たざるを得ないのである  
松と竹長へは島根県に幸はひせ人敢て松永知事に進言するのてある

山陰新聞 三十八年七月十四日

●竹島視察員に就て 郵船会社境代理店主栢木竹野雄氏外一名は  
昨日本埠第三部へ出頭し神西事務官に面談せしか其用向は來廿  
一二日頃出矣すへき松永知事以下竹島視察員一行も搭載す  
へそし船の件に付て存りぞ

同 七月十五日

●竹島視察準備 既記松永知事以下竹島視察員の一行は來廿  
二日頃出矣せん替方りし船の都合に依り來八月十日に延期せり  
或は少しく早まるやも知れずと云へ神西事務官は同伴に聞する  
取調の傍々軍用麦輸出上の用務にて一昨日午後四時伯州  
境港へ出立し昨日午後歸松せり

山陰新聞 三十八年八月五日

●竹島探検 既記松永知事以下高尾官其他の竹島行  
は第一松永丸と決し愈々來十六日出矣境港を抜錨す等丸も都  
合によれば十七日とあるやも知れずと

同 三十八年八月六日

●竹島渡航 松永知事以下四十七名の竹島渡航者は前号にも記  
せる如く愈々來十六日朝境港を出帆して松永に航し同夕刻西郷  
港を出帆して竹島に向ふことに決定したり依て境港より乗船する  
者は前日の夕刻迄に境港に到着すべく西郷港より乗船するもの  
は当日正午までに同港に到着するを要すと云ふ

同 三十八年八月十六日

●陸攻国通信(十三日) ●彼の竹島視察船は陸攻国におりては島  
司、島方書記三名、警務員三名、町村より松永搭する替方りと

山陰新聞 廿八年八月十八日

◎竹島行期日 県内官民、竹島行は天候不穏の爲め尙も延期に決せしとは既記せしが、二十日二十日等の風日も眼前に迫るを以て寧ろ延期して来九月二十日前後に出発する事に決定せりと。

山陰新聞 廿八年八月廿二日

◎松永知事の竹島視察 松永知事は藤田県属を随ひ佐藤県警務長は大塚警部を随ひ去十八日便船にて隠岐国の新領土たる竹島に飛行し同島に上陸して親しく状況を視察し、昨日帰松せり。

◎県片内に海豚放養 本県の新領土たる竹島附近には海豚の郡集し居りて隠岐国の多くの漁民が至りて之れを捕獲することなるが、今回該島を視察せる松永知事の一行は漁民の捕獲せる本年生の海豚三頭を貰ひ受けて帰松し、昨日県庁第三部庭内の溜池へ放流して尙今飼養することとせり。

山陰新聞 廿八年八月廿三日

◎県片内放養の海鹿 今回松永知事が竹島より持ち帰り、県片内の溜池に放養せし海鹿三頭は、昨日は余の牡衰弱せし様に目受けられしも、昨日は八束郡恩墨の水産試験場より取り寄せたる鹹水を入れしより、海鹿は非常の元気となり、食餌としては鱈を喰ひ居れるが、鹹水は毎日水産試験場より送来る筈、松永知事は遠からず一頭だけ打殺して其の肉を属僚に人かれんと言ふおれりと因みに、恩般町市天神境内において目せぬに爲し居たる大龜は目下八束郡本庄村において興業し居り相場の観者ある由。

同 廿八年八月廿日

◎隠岐通信 竹島へ移植すべき見込に、小松拾数本、島片にて培養し居りしと。



同 廿八年九月五日

○利製の海野 本県水産試験場にて飼養中なる海野三頭の内一頭は去二日激死せしを以て昨日松江に搬送し末次本町米石小伊之助に利製せしむることありたり

同 廿八年九月廿日

○竹島の漁業 韓国竹島に集航する日本漁船の数は昨年々歳々増加し来り本年は四百六十隻の多きに達したり而して一隻の乗組人員はアソコ細、鯨縄は大佐三人、鯨流網は五人存るを以て此等組統人員は千四百二十九人なり前年より隻数百四十九人員三百八十八人を増加したり此等漁船も亦多く出し居るは長崎、熊本、香川、愛媛、山口、徳島等とす。(以下省略)

山陰新聞 廿八年十月三日

○竹島探検の事 本県の新領土たる隠岐国附近竹島探検の事は去八月決行する筈なりしに天候不順良のため遂に無期延期となりしが早や天候も定まりれば本月中に実行せんと其向におもて協議中なるか模様には依れば明春に延期することになり人も知れずと

山陰新聞 明治廿九年三月十日

○竹島行決定 延期に延期を重ねたる竹島行は愈々来廿四五の両日とらつて伯耆境港解纜往復五日間の見込にて樹陵島へ寄港する都合あるか船は第二隠岐丸の予定にして不日隠岐島司若くは島書記一名か万事打合のため境港へ来着する筈而して人員並に人名は未決定せざるも県立各子校職員は殆ど本年試験にて差支あるを以て渡航せざるべく人員は約三十名前後なるべしと右に就き県衛生技師員岡崎正太郎氏は県知事より同島における衛生調査を囑託せしる目下技師金子治氏は水産調査として渡航する筈